

議会報告会実施報告書

建設市民委員会

開催日時	令和6年10月21日(月) 午後1時30分～3時00分	開催 会場	兼山地区センター
参加者数	① グループ 市民6人、議員2人 (計8人) ② グループ 市民7人、議員2人 (計9人) ③ グループ 市民5人、議員3人 (計8人) 参加市民合計18人		
実施内容	テーマ「公共交通について思うこと」		
質疑および 主な意見等	<p>&lt;1グループ&gt; 進行：山田委員 / 記録：奥村委員                  &lt;2グループ&gt; 進行：川上委員 / 記録：前川委員                  &lt;3グループ&gt; 進行：高木委員 / 記録：酒井委員、伊藤(健)委員                  ※伊藤壽委員長は全体の進行。</p> <p>【懇談の目的】委員会の重要課題として取り組んでいる公共交通問題に関する市民意見の聴取。</p> <p>【各グループから出た主な意見】</p> <p>○兼山地区の方のお出かけ状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院(とうのう病院、中部医療センター 等)</li> <li>・買い物(ロピア(今渡)、ラスパ(御嵩) 等)</li> <li>・市役所 ・可児駅 ・図書館 等</li> </ul> <p>※ほとんどは病院への通院と買い物での利用。難点としては、買い物に行っても、3時間間隔しかないバスだと間隔が長すぎて不便</p> <p>○さつきバスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも1日に4便しかなく不便である。</li> <li>・利用者が1人～5人しかいないので、小さいバスでよいのでは？</li> <li>・さつきバスの利用法を知らない人が多いので分かりやすくしてほしい。</li> <li>・行きの時間はよいが、帰りの時間帯(遅い時間帯)のバスがない。</li> <li>・買い物に行く際に利用しても帰りの時間が合わない(3便と4便の時間が開いている)。思い荷物を持って2時間も待てない。</li> <li>・病院に帰りのバスの時間を伝えても配慮してもらえない。</li> </ul>		

- ・美濃加茂市の病院や御嵩町へ行く便がないので不便。
  - ・利用料金は安い（200円）もう少し値上げしてもよいのでは。
  - ・料金は普通だと思うが安ければ安い方がよい。
  - ・1日券（400円）で遠方に行ったときは助かった。
  - ・バス停は乗りやすい。
  - ・バス停に日除けやベンチがほしい。
  - ・障がい者も利用できるバスがほしい。
- 電話で予約バスについて
- ・兼山にもデマンドバスがほしい。
  - ・デマンドバスの方が利用しやすいのでは。
- その他のご意見
- ・東白川村の「つちのこバス」のような、どこでも乗降できるバスがほしい。
  - ・美濃加茂市の「あい愛バス」は評判が良く、利用者も多い。
  - ・名鉄広見線が無くなると不便になるので存続して欲しい。
  - ・YAOバスで、明智駅経由で可児駅へ行くと500円以上掛かり割高のため、利用者は少ない。
  - ・ライドシェアや自動運転について導入できないか。
  - ・移動手段だけを考えるのではなく、移動販売などに来てもらう方法等を考えては。

#### 【まとめ】

高齢化と人口減少が進む兼山地区において、さつきバス、YAOバスは、地域の人々にとって大変重要な移動手段である。利用者からは、バスダイヤの時間帯、便数、乗り継ぎ、行き先、デマンドバスへの転換等について改善の意見があった。今後、自動車免許返納などにより、移動手段を持たない人等の増加が予想され、公共交通機関により容易に目的地に行け、帰ることができるよう、地域の利用ニーズに合った改善が必要であり、それに答えていくことが大切である。

令和6年10月29日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 伊藤 壽



議会報告会実施報告書

建設市民委員会

<p>開催日時</p>	<p>令和6年11月8日(金) 午後3時00分～4時30分</p>	<p>開催 会場</p>	<p>桜ヶ丘 地区センター</p>
<p>参加者数</p>	<p>① グループ 市民5人、議員3人 (計8人) ② グループ 市民5人、議員4人 (計9人) 参加市民合計10人</p>		
<p>実施内容</p>	<p>テーマ「公共交通について思うこと」</p>		
<p>質疑および 主な意見等</p>	<p>&lt;1グループ&gt; 進行：高木委員 / 記録：奥村委員 川上委員 &lt;2グループ&gt; 進行：伊藤健二委員 / 記録：前川副委員長 酒井委員、山田委員 ※伊藤壽委員長は全体の進行。  【懇談の目的】委員会の重要課題として取り組んでいる公共交通問題に関する市民意見の聴取。  【各グループから出た主な意見】 ○桜ヶ丘地区の方の公共交通でのお出かけ状況 ・病院（多治見市民病院、東可児病院 等） ・買い物【西友、バロー（多治見、広見）、パティオ 等】 ・多治見方面に出かけることが多い ※ほとんどは病院への通院と買い物での利用。アクセス改善を。  ○さつきバスについて ・便数が少なく不便である。増便を望む。 ・1日4便しかないので通勤通学にはほぼ使えない。 ・利用促進のためにも、ノーカーデーを作ってさつきバスを利用する日を作っては。 ・病院専用路線を作っては。 ・地区センターを拠点として便数を増やすべき。</p>		

- ・美濃加茂市はバスの大小があり、細かく運行している。可児市でもできるのでは。
- ・バス停の数よりも、運行の曜日や時間帯が利用者の希望に合致していないのでは。

#### ○電話で予約バスについて

- ・日祝日に地区センター（皐ヶ丘）までしか来ず、桜ヶ丘住民には地区センターまで歩くととなると遠く不便。桜ヶ丘の中心地（例：西友付近）までの運行希望が強い。
- ・団地内を回る新たな循環バスの設置や、既存の「さつきバス」との統合を。

#### ○移動支援について

- ・桜ヶ丘では移動支援ボランティアが17年前から活動しており、225名の会員がいる。一人3000円の入会金・1km当たり25円を徴収している。ドアTOドアで大変感謝されており、その声でボランティアを続けている。自動車の経費は全て自己負担。現在9名で支援しているが高齢化で大変である。現在まで交通事故は起こしていない。病院と買い物ほとんどで、利用者の90%が女性である。
- ・移動手段がない方への支援が不十分であり、特にバス停まで行けない高齢者や免許を持たない方への対応が求められる。
- ・市の支援車両を活用し、団地内を巡回するサービスの可能性は。
- ・体に障がいのある方に感謝されている。多治見・可児の市街地・美濃加茂への利用が多い。家族から移動支援に対する反対を受けている方もいる。
- ・移動支援のコーディネーターが必要で有り、この作業を外部や市が行っていただくとありがたい。
- ・毎週火曜日には買い物支援専用で行っている。

#### ○その他のご意見

- ・バスやタクシー予約システムの認知度が低いことが課題とされ、より分かりやすい周知活動が必要。
- ・公共交通利用者以外のニーズ調査も提案され、利用している人の意見だけでなく、特に利用しない方の理由を把握することが重要。
- ・多治見方面へのアクセス利用者が多い。多治見駅へのバス交通がなくなった場合、桜ヶ丘は過疎化してしまう。過疎化防止には公共交通の改善が重要である。
- ・バス、タクシー事業者、移動支援団体との連携が必要。

- ・最近民間タクシーの予約ができず、待機時間が不明で利用しにくい。
- ・広い視野で街づくりと公共交通を組み合わせるのプランニングが必要。
- ・公共交通全体のDX化が必要である。
- ・若い世代からの意見も集め、幅広い年代のニーズに応える施策が求められる。

#### 【まとめ】

桜ヶ丘ハイツ地区は、病院や買物、通勤等で多治見市との結びつきが強く、私鉄のバス路線もほぼ多治見駅への路線であり、移動支援では、市域を越えて多治見市への送迎が多く利用されている。こうした現状のもと、高齢化が進む中で、桜ヶ丘ハイツ内の公共交通による移動、桜ヶ丘ハイツから可児市内への私鉄のバス路線を含め、公共交通機関による移動をスムーズに行えるよう考えていく必要がある。また、さつきバスや電話で予約バスなどについては利用方法の周知が十分でないと考えられるため、住民への周知活動も必要である。そして、今後の公共交通のあり方を考えていくうえで、高校生など若い世代の意見を聞く機会も設けていきたい。

令和6年11月19日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 伊藤 壽



開催日時	令和6年11月10日(日) 14時00分～15時40分	開催 会場	市役所5階議会棟
参加者数	①グループ 自治連会長5人、防災士4人、議員2人 (計11人) ②グループ 自治連会長5人、防災士4人、議員2人 (計11人) ③グループ 自治連会長4人、防災士4人、可児工業団地組合1人 議員2人 (計11人)		
実施内容	テーマ「地域防災力向上の取組みについて」		
質疑および 主な意見等	<p>○懇談の目的：行政と自治会が連携した防災対策が必須の中「住民主導型の防災訓練」を進めるために、防災士の方々が地域でどのように活動されているのか、また台風の影響で中止となった9月の防災訓練では、各自治会がどのような訓練に向けての準備がされたか聴取し、参加者全員の情報共有を図る。</p> <p>○資料：議会報告会レジュメ、参加者名簿、議会のトビラ第94号</p> <p>○次第：議会のトビラとスライドを使って総務企画委員会の活動内容を中心に議会活動等の報告を行い、その後3グループに分かれて意見交換。</p> <p><b>【防災訓練の実施状況関連の主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時避難所の地区センターへ参集し、災害関連の啓発ビデオを鑑賞してもらっていたが、今年は非常食を配給するために準備していた。</li> <li>・高齢者用にリヤカーを使った避難訓練を検討している。</li> <li>・これまでの災害発生後を想定した訓練ではなく、減災対策を目的とした防災訓練への改善が必要。</li> <li>・訓練のための訓練になっている傾向にあるので、実のある防災訓練を行っていく必要がある。</li> <li>・過去に河川の氾濫の水害があったので、訓練では土嚢づくりや安否確認、隣近所の声かけを行っている。</li> <li>・参加者は高齢者が多く、20代30代の参加が少ない。</li> <li>・防災リーダーとして思うことは、どういう災害が想定されるかを決め、その災害ではどういう被害が考えられるか、その対策が訓練すべき内容となる。</li> </ul> <p>(可児工業団地組合)平成27年にトヨタ自動車などからの要請がありBCP(業務継続計画)に組合で取組んだ。その成果として災害マップ(冠水箇所)、非常用放送設備設置。自家発電機。非常用トイレ備品保管、防災士1名。各社2名で安否確認。IP無線 産業振興課と情報交換。災害時における支援協定書締結。(姫治と春里地区)物資や自衛消防隊の地域への派遣。市とは、工場内に支援物資一時保管の協定を結んでいる。</p> <p><b>【地域での課題等に関する主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能登の震災でのトイレの問題を受け、簡易トイレの備蓄だけでは十分ではないため、自治会内の公園にトイレを設置することを市に要望している。</li> <li>・災害時には各自治会が住民の安否確認などを行うようになっているが、自治会未加入世帯への対応が課題である。</li> </ul>		



- ・小淵ダムの下の集落では、地震が発生したらダムをチェックする係がある。
  - ・地区の面積が広いので災害時には3つの地区で無線を利用して連絡が取れるようにしているが、維持管理費がかかってしまうため苦慮している。
  - ・災害時の要として重要な役割を担ってもらっている消防団員確保のために報酬などの処遇改善を図るなど、市の対策が必要。
  - ・防災士として以前にやっていた事がコロナ禍で停滞している。防災ではなく備える（備災）ことが必要。
  - ・防災士の資格はあるが、活用する場がない。研修会や被災地への派遣など検討すべき。自治会と防災士の交流の機会を持って是非協力したい。
  - ・特に、防災・減災に対する活動は継続性がないと意味がない。
  - ・要支援者等の名簿を地区センターで保管しているが、自治会で把握することも必要。
  - ・このような機会がはじめての一步になる。
  - ・防災士を組織化し、主体的に動いていけるようにしていくことが必要。
  - ・防災について、地区センターを中心とした訓練をどう進めていいか自治連合会として迷いがあったが、他地域の活動が参考になった。特に防災士に相談し連携することが必要と感じた。
  - ・坂戸のグラウンドが防災拠点として整備されているが、アクセス状況が悪く、有事に災害用運搬車両のスムーズな通行が出来るのか等、拠点としてしっかり機能できるか議会で検証してもらいたい。
  - ・防災訓練が中止になったが、いざという時に備えて、後日100人規模で初期消火や炊き出し、可搬ポンプ訓練をおこなった。
  - ・兼山のシンボルとして火の見櫓を維持している。
  - ・地区センターが低い場所にあるので、避難先としては不安があり移動を促しにくいと感じる。
  - ・防災士として感染症対策の指針が必要と考えている。
  - ・団地内は水の確保が大切であるので、協定を結び2つの池を利用させてもらう計画をした。
- 【全体会のまとめ】**
- ・災害弱者のために、地域住民の連携で出来るように訓練していくべき。
  - ・地域で活躍できる防災士がどこにいるのか顔の見える関係作りが1歩。
  - ・各グループとも、自治会と防災士の継続的な連携が必要との意見が出た。
- 【報告会終了後の議員間でのまとめ】**
- ・非常に有意義な時間であった。マッチングも良かったのではないかな。
  - この組み合わせで継続していくと良い。
  - ・出席者の防災意識は高いが、非自治会員へのアプローチが大切。
  - ・要支援者への対応は自治会だけでは難しいので地域の連携が大切。
  - ・地域で活躍できるように防災士の組織化と市のバックアップが必要。
- (防災については、地域で継続性が構築できる体制づくりが必要である。)

令和6年11月18日

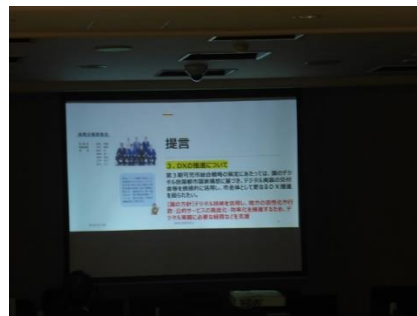
可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 松尾和樹



## 【全体会】議会からの報告の様子



①グループ意見交換の様子



②グループ意見交換の様子



③グループ意見交換の様子

